特集

子どもたちの可能性を広げる 英語教育

国際色豊かな地域だからこそ

グローバル化や技術革新が急速に進む現代、特に外国人観光客が多く訪れる倶知安町では、その国際色豊かな地域性から、実践的な英語力や国際感覚を備えた人材の育成を目指しています。

小学校での外国語活動の導入

文部科学省が示した学習指導要領に基づき、平成23年度から全国的に、小学校5・6年生の外国語活動が導入されました。

児童の学習意欲や進学後の外国語教育に対する積極性が向上するなどの成果が見られた一方で、小学校と中学校の接続的な学びに関して、課題も指摘されていました。

学習指導要領の改訂

そうした成果や課題をふまえ、平成29年度に改訂された新学習指導要領では、これまでよりも早い段階で「話す」「聞く」を中心とした授業を取り入れる方針が示されました。

それにより、令和2年度からは、これまで小学校5・6年生で実施していた外国語活動を3・4年生に引き下げ、5・6年生の授業では「読む」「書く」をさらに加えて、中学校へのスムーズな接続を図っています。

	令和元年度まで（改訂前）	令和２年度から（改訂後）
小学 3・4年	「総合的な学習の時間」の一環として英語に慣れ親しむ活動を実施	「外国語活動」として年間35時間実施 「話す」「聞く」を中心とした学習を行う
小学 5・6年	「総合的な学習の時間」とは別の「外国語活動」として年間35時間実施	新教科「外国語科」として年間70時間実施 「話す」「聞く」に加えて「読む」「書く」を学び、中学校の英語科の授業に備える

くっちゃんの取り組み

本町では、令和２年度の全面実施に先駆けて、移行期間の平成30年度から英語専科教員を活用した町独自の授業を開始。

小学校では、すべて英語で進める「オールイングリッシュ」での授業を実施し、コミュニケーション能力の向上に取り組んできました。

中学校では、令和２年度から英語授業にサポートティーチャーを導入し、中学校英語教員の指導・支援を行っているほか、生徒の学習のサポートを行い、小学校で学んできた質の高い英語教育とのスムーズな接続を図っています。

英語専科教員とは

学級担任を持たず、英語の指導を担当する教員。本町では民間英語教育事業者へ委託し、オールイングリッシュ授業など、専門性の高い指導を行っています。

ケンブリッジ英検に挑戦

オールイングリッシュでの授業がスタートして４年目となる今年度、町内全小学校の６年生約140名が、ケンブリッジ英語検定を受験しました。子どもたちが受験した「Pre A1 Starters」は、読む、書く、話す、聞くの４技能を含む、初学者向けの国際英語テストで、世界各国の子どもたちに受験されています。

倶知安町教育委員会
村　井　満　教育長

ここでしか経験できない学びを

国際リゾート都市へと発展を続ける本町は国内外からの移住者も多く、さまざまな文化や考えを持つ人々が混在する町へと変貌しつつあります。

平成30年度にスタートした民間委託による町内全小学校のオールイングリッシュ授業の取り組みでは、国際言語である英語教育を通じて外国人とのコミュニケーション能力を高めると同時に、異なる文化や考え方を理解しようとする基本姿勢を身につけることを一番の目的としています。

小学校の英語教育では、英語でのコミュニケーションの楽しさを感じ、抵抗感なく取り組めることがなにより大切です。英語が好きになれば自然と努力するようになり、成果が出れば自信に繋がり、他の教科へも良い影響を与えると思います。

また、今年度、町内全小学校の６年生が受験したケンブリッジ英検の結果を見ると、特に「話す」「聞く」の評価が高く、コミュニケーションを中心とした授業の成果が表れていると感じました。

オールイングリッシュ授業は、日本ではほとんど行っていない画期的な取り組みであり、他の地域では得られない学びがあると思います。英語を通じて国際的な感覚を身につけ、世界で活躍できる人材が育ってくれたら嬉しいです。

本町としては、今後も引き続き、民間事業者や学校と連携し、よりよい英語教育を進めていきたいと考えています。

子どもたちに聞きました

小学３年生から倶知安町の英語の授業を体験してきた子どもたちに、４年間の学習について話を聞きました

倶知安小学校　６年１組

前田 陽葵（ひなた） さん　山田 航太郎（こうたろう） さん　須永 慎（しん） さん

佐藤 美月（みづき） さん　杉澤 輝星（るき） さん

英語の授業は楽しい？

「他の授業とは少し違い、グループやペアで交流をする活動があります。友達と一緒に考え、英語でコミュニケーションをとるのが楽しいです」

オールイングリッシュの授業について

「最初は分からないことばかりでしたが、先生の動きや身振りを通じて理解できるようになりました。英語が少しずつ分かるようになってから、授業がより楽しくなりました」

ケンブリッジ英検に挑戦して

「試験の前には、プリントなどを使ってたくさん勉強しました。読み書きが難しかったですが、試験という目標に向かって頑張ったことで、さらに成長することができました」

これまでの授業を振り返って

「授業を通じて、英語を読んだり理解したりする力がつきました。分からないことがあれば友達に聞いたり、教え合ったりしています。中学校でも勉強を続けて、もっと上手に英語が話せるようになったら、外国の人と交流してみたいです」

先生に聞きました

英語専科教員のお二人が、授業への思いや今後の目標について、英語で答えてくれました

英語が非日常ではなく当たり前になるように

Junko 先生

英語専科教員として心がけていること

英語が得意な児童も、全員が楽しめる授業をつくりたいという思いで取り組んでいます。こちらが英語で話していることを忘れてしまうくらい、内容に興味を持ってもらえるようにしたいです。

ケンブリッジ英検を受けた子どもたちの変化

子どもたちは、それまでできないと諦めていたことを、当たり前のように挑戦するようになりました。また、ケンブリッジ英検は４技能に分かれているので、得意を伸ばしたり、苦手を認識して克服したりするいい機会になりました。受験に向けた学習の中で重要だと感じたものは、今後の授業でも積極的に取り入れていきたいです。

これからの目標

子どもたちは学びに対して貪欲で、教える側が限界を決めないことの大切さを学びました。これまでの常識や限界にとらわれず、子どもたちの「分かった！」「おもしろい！」という反応がたくさん見られる授業を一つでも多く実施したいです。

子どもたちにとって、英語を話すことが非日常の特別なことではない、そんなまちになってくれたら嬉しいです。

どんな壁も仲間と楽しみながら

Koudai 先生

英語専科教員として心がけていること

子どもたちとの信頼関係が授業に大きく影響するため、積極的にコミュニケーションをとることを心がけています。また、すべて英語で授業を進めるので、身振りや表情、教材を工夫して、どうすれば理解してもらえるか、子どもたちの反応から多くのことを学んでいます。

ケンブリッジ英検を受けた子どもたちの変化

進んで質問をするようになるなど、子どもたちの英語に対するモチベーションが高まったように感じます。人に尋ねることを抵抗なく、英語でできるようになった姿を見ることができて嬉しかったです。

今後は、話す、聞くだけでなく、読み書きの力を伸ばしてあげたいです。

授業を通してどんな力をつけてほしい

完璧に話せなくても、身振りや絵、知っている単語を使うなど、工夫して伝える力をつけてほしいです。また、英語を学ぶ中で直面するさまざまな壁をゲーム感覚で楽しんだり、どんなことも仲間と楽しめるようになってくれたら嬉しいです。